

生徒会数珠つなぎ

市内中学校の生徒会活動を毎月ご紹介

月
日
曜
日

市立金剛中学校

—今月号から、市内中学校の生徒会活動を順次ご紹介—

金剛中学校の2年生学年議会です。学年議会とは生徒会の組織の1つで、各クラスの学級委員が集まっています。

私たちは、1年生の時にSDGsについて調べ『誰ひとり残さない』を学年目標にしました。またそれをテーマにさまざまな学習もしました。

その中で、アフリカ・ケニアのキベラスラム（アフリカ最大級のスラム街）の



早川さんのお話

子どもたちの居場所であるマゴソスクール主催の早川千晶さんに出会いました。厳しい環境の中でも笑顔で前向きに学習している子どもたちの話を聞かせてもらい、自分たちにもできることはないかと考え、マゴソスクールを支援する募金活動をしました。

また、金剛地区の人たちの居場所づくりをしている、わっくcafe・カレー食堂の方とも出会いました。私たちはこの2つの出会いをつなげ、わっくcafeに「自分たちで出店し売上をマゴソスクールに募金する」活動をしています。



わっくcafeでの打ち合わせ

手作り雑貨を商品に



市長と交流

今は、この活動を持続可能なものにするためにみんなで考えています。

図教育指導室（内線365）

視覚障がい者の移動にご理解・ご支援を

（一財）府視覚障害者福祉協会から皆さんへお願い

日常生活のさまざまな場面で、「危ない」「危険！」と感じることが多くあります。その頻度は、皆さんより私たちが視覚障がい者の方が高くなるのは当然です。しかし、それが大きな事故やけがに至っていないのは、皆さんの優しいご支援のたまものと、心より感謝いたします。

令和4年4月、奈良県の踏切内で、全盲女性死亡する悲しい事故が発生しました。その原因を多くの方は、「目が見えないから分からなかった」と思われているかもしれませんが、決してそれだけではなく、誰にでも起こりうる事故であったと考えています。

個人差はありますが、突然想定外の出来事が起きた時、思考力が散漫になるほどの危険事態（パニック）に陥ることがあります。被害に遭われた女性も、警報機の音にびっくりして、踏切の中で自分の立ち位置が分からなくなってしまう可能性もあります。

一人歩き経験がある視覚障がい者の多くは、車や自転車との接触など、いくつもの危険な場面を体験しています。そんな時、居合わせた人たちの声掛けや適切な対応で、大切な命を守ることができ

ているのです。

二度とこのような悲惨な事故を繰り返さないよう、視覚障がい者はそれぞれの立場で、「安全な移動」に対する意識をさらに高めて行かなければなりません。その上で、皆さんにもぜひご理解とご協力をお願いしたいことがあります。

■視覚障がい者に援助の手を差し伸べていただく時のお願い

・体や持ち物にあたる前に、「踏切・信号と一緒に渡りましょうか」などの声を掛けてください。

・渡り終えた所では、目標となる線プロックや、進路の正しい方向を伝えてください。

・階段の昇降中は危険ですので、最後まで見守っててください。

障がいの有無にかかわらず、子どもや困っている人に手を差し伸べていただく場合、善意を相手に伝えるため、まず、声を掛けるようにしてください。

みんなの優しさで、安心して生活できる街になりますようお願いしています。

図障がい福祉課（内線191）

